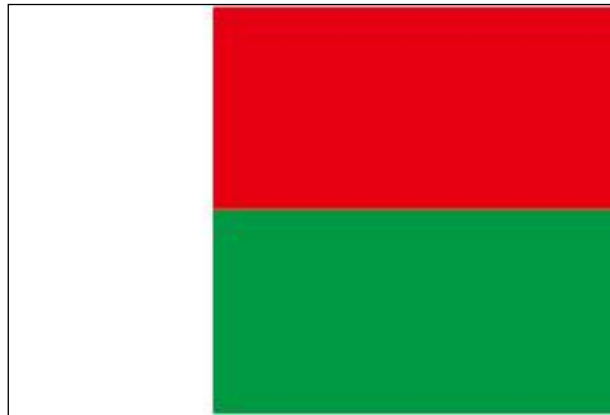


# JICA 海外協力隊 赴任前留意事項

## マダガスカル共和国



※本資料に記載の情報は、作成日現在のものであり、その後状況が変化している場合があります。入国条件の変更などにより、内容に変更が生じる可能性があります。記載内容については正確を期していますが、万が一誤りがあった場合には JICA は責任を負いかねますのでご了承ください

※本資料は JICA 海外協力隊を対象としたものです。

## 目次

- 1 赴任時の携行荷物について
- 2 別送荷物について
  - (1) 郵送利用
  - (2) 通関情報
- 3 通信状況について
  - (1) 電子デバイス
  - (2) 携帯電話貸与
  - (3) スマートフォン
- 4 現金の持ち込みなどについて
  - (1) 現金持込に係る注意
  - (2) 両替
  - (3) 赴任時に用意する金額
- 5 治安状況について
- 6 交通事情について
- 7 任国での運転について
- 8 医療事情について
- 9 その他

## 1 赴任時の携行荷物について

※隊員ハンドブック 3-5 出発時の注意事項を必ず確認の上、ハンドブックに記載されている「手荷物として持参するもの」に加えて、以下を持参ください。

- ・外貨：当面の生活費及び初回の住居費立て替え分に必要な 10 万円（ユーロで用意）程度
- ・海外で使用可能なクレジットカード
- ・スマートフォン（アプリ；WhatsApp が使用可能なもの）
- ・表敬用の服（関連省庁、大使館）：スーツ
- ・「写真規格一覧」で持参指示のある写真
- ・JICA 海外協力隊ハンドブック
- ・共済会ハンドブック
- ・個人常備薬
- ・体温計
- ・Medical Information

## 2 別送荷物について

### （1）郵送利用

マダガスカルへの荷物の輸送は、国際郵便（EMS、国際小包（航空便/船便）、国際宅急便（DHL、クロネコ国際宅急便等））を利用する方法があります。引き取りについては以下の点につき留意してください。

- ・荷物到着時は、通常 JICA マダガスカル事務所に到着通知が届いた後、各自郵便局で引取
- ・到着通知が届かない場合もあるため、各自番号追跡で到着を確認
- ・引き取りの際、荷物保管料として、40,000Ar 程度を支払い発生

荷物の宛先は、JICA マダガスカル事務所の住所を利用可ですが、受け取りの際にトラブルが発生した場合は当事務所で責任は負いません。

#### 【宛名書き例】

隊員の氏名【M. / Mme】

**JICA Madagascar Office**

Immeuble Fitaratra, 7eme étage Sud

Rue Ravoninahitriarivo, Ankorondrano,

Antananarivo 101 Madagascar – B.P.7552

**Tel: 261-20-22-300-13**

### （2）通関情報

- ・国際郵便の受取時、保管料とは別に、身の回りの品や食材の申請価格に対し、およそ 49%の関税を請求される場合がある。
- ・アナカンの場合は、通関手続きを業者に依頼して行うのが通常であり、現地での通関手続きにも費用（関税等および各種手数料）がかかる。

### 3 通信状況について

#### (1) 電子デバイス

当国では専用コンセントプラグ（フランス式/Cタイプ）をつければ220Vで使用可能です。デバイスは当地で購入も可能です。また、マダガスカルは電圧が不安定で電気製品が故障しやすいため、荷物に余裕があれば、予備のバッテリーや変圧器を持参してください。

インターネット事情については、民間プロバイダ会社によるサービスが普及しており、光ファイバー、電話回線を利用する方法やWi-Fiルーターなどを購入すること可能です。料金やひと月の使用制限容量などのサービスは各社によって異なるので、必要な隊員は各自で調べ購入してください。

Yas : <https://www.yas.mg/>

Orange : <http://www.orange.mg/>

Blueline : <http://www.blueline.mg/>

#### (2) 携帯電話貸与

隊員には、安全管理・確保の点から、着任時に事務所から携帯電話（ガラケー）を貸与し、キャリアはYasを利用します。

#### (3) スマートフォン

当事務所では、安全に関わる情報の迅速な共有体制の構築を目的として、JICA関係者を対象にWhatsAppグループを運用しており、登録を必須としています（詳細は着任後）。

スマートフォンを日本から持参する場合は、予めSIMロック解除をし、マダガスカルSIMを使える状態（SIMフリー）にしておいてください。

### 4 現金の持ち込みなどについて

#### (1) 現金持込にかかる注意

マダガスカルの出入国の際に1,000ユーロ相当を超える貨幣の持ち込みをする場合は申告が必要となります。

制限を超える現金や規制品を持ち込むことのないように、赴任前に必ずマダガスカル税関のホームページを確認してください。

<http://www.douanes.gov.mg/particulier/guide-de-passage-en-douane/#1635335322033-2141537e-d668>

#### (2) 両替

ユーロや米ドルは空港やホテル、銀行等で両替が可能です。空港では日本円も両替することができますが、レートが悪いため推奨していません。

クレジットカード（主にVISA）は、首都ではホテル、スーパー、外国人向けレストランなどを中心に取扱う店舗もありますが、地方においては現金が主流です。

また、クレジットカード（主にVISA）でのキャッシングや国際キャッシュカード（PLUSマーク）での引出も可能です。

### (3) 赴任時に用意する金額

最低限、赴任経費の移転料（105,250 円）をユーロ現金に換え持参してください。

マダガスカル到着時に空港で 200 ユーロ分を現地通貨のアリアリ（Ariary）に両替します。その後は、市内の銀行等で適宜両替してください。

## 5 治安状況について

2025 年 9 月に長らく続く停電や断水が原因で政変が起きました。現在、暫定政権が公務を行っており内政は安定していますが、今後も政治集会やデモ、これに伴う騒擾が発生するリスクを念頭に、情勢を注視して行く必要があります。

そのような状況下、JICA 関係者が強盗やひったくり、スリなどの被害に遭っています。毎年、JICA 関係者が犯罪に巻き込まれています。各自、安全対策は怠らないようにお願いします。

- ・ JICA 安全対策ページ <https://www.jica.go.jp/about/safety/index.html>
- ・ 外務省 海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/index.html>

## 6 交通事情について

当地の運転マナーや道路の状況、車両の整備状況は劣悪です。市内通行時は狭い道路に人やバスやタクシーの他、リヤカー、自転車、バイクが錯綜するため、歩行時、横断時には注意が必要です。アンタナナリボ市内のタクシーやミニバス（タクシーベ）は整備状態が悪い車両が多いため、利用する場合はできるだけ状態の良さそうな車両を選ぶようにして下さい。また夜間は（特に女性の場合）一人でのタクシー乗車は避けるようにして下さい。

都市間の移動については、タクシーブラスと呼ばれるミニバスが運行しており、隊員は移動に利用します。走行中は、防犯・交通事故対策として、居眠りをしないよう心掛けて下さい。

また、夜間は、走行中の車両を狙った強盗が多発しているほか、居眠り運転による事故もしばしば発生していますので、タクシー、レンタカー、バスを問わず日没後の陸路での都市間移動は禁止です。

バイクの運転・同乗（二人乗りやバイクタクシーの利用）は禁止です。

## 7 任国での運転について

当国では隊員の運転を不可としています。また、自転車は事務所が承認した場合により使用可能です。

## 8 医療事情について

・ 傷病時には、健康管理員（不在の場合はボランティア調整員）や現地顧問医の指示に従い、JICA の推奨する現地の病院を受診してください。医療機関の設備・機材の状況や医療レベルは十分でないため、各自、日頃から健康管理を行うことが重要です。隊員がかかりやすい疾病は、下痢、腹痛、発熱です。細菌・ウイルスに汚染された食べ物から感染する機会が多いので、食前、トイレ後の手洗いの徹底、口にする物は十分に火を通す、不衛生な場所で調理された物は食べない等、自己予防を徹底してください。また、大気汚染やウイルス・細菌感染による上気道炎も多いため、気管支の弱い方はマスク着用を推奨します。

・河川や沼の水に触れることで感染する住血吸虫症、野犬やキツネザル、コウモリなど狂犬病に感染した哺乳類動物の唾液から感染する狂犬病もあります。また、マジュンガなど沿岸地域等では、マラリアが流行しています。また 2025 年より全土で M-POX が流行しています。

・毎年一部の地域ではペストも発生しますので、ネズミに注意してください。

・当国の歯科治療は、技術・歯科治療材料などの面で日本と同レベルを期待できない、また充填物脱落する方も多いため、赴任前に必ず歯科検診、治療を終えておいて下さい。

その他当地の医療事情、感染症などについては、以下、在外公館医務官情報を参考して下さい。  
外務省サイト、世界の医療事情マダガスカル

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/africa/madagas.html>

・予防接種について

当国でも腸チフスの予防接種は可能ですが、腸チフスにかかるリスクのある国ですので、できる限り出国前に渡航外来での接種されてくることを推奨します。

髄膜炎ワクチン、麻疹風疹ワクチンなども渡航外来にて医師と接種検討をお勧めします。

・持参推奨医薬品等：

①体温計、マスク、風邪薬、解熱鎮痛剤、虫刺され軟膏、虫除けスプレー、整腸剤、胃腸薬など  
マダガスカルで販売されている医薬品はフランス製、インド製が大半で、日本製の薬は入手出来ません。病気になった際の経口補水液の代用として、粉末のポカリスエットなどもお勧めです。また、ダニやノミなどの虫による肌トラブルも多いため、ダニ除けマットなど寝室に置くことも効果があります。住居用の害虫対策（ゴキブリやネズミなど）は首都の大型スーパーで購入できます。

マラリア流行地（マジュンガ等の海岸部）に配属される隊員には任国到着後に JICA が推奨する予防薬を配布しますが、あらかじめ日本の渡航外来で医師と相談の上、30 日分処方されることを推奨します。（特に既往症や普段内服されている薬のある方は飲み合わせの問題等があるので）

JICA が推奨かつマダガスカルで現在入手可能な予防薬は以下の 2 種類です。

-ドキシサイクリン（当地の商品名は Tolexine Gé100mg）

-アトバコン・プログアニル（当地の商品名は Malarone）...時々在庫なくなる可能性あり

コンタクトレンズ使用の方は、当地でも処方、購入が可能です。日本から必要な分と眼鏡を持参しつつも、規定の使用期間を超えてのレンズ使用は眼疾患のリスクとなるのでやめましょう。

②蚊帳

当地沿岸部は、マラリア・デング、チクングニヤ熱の汚染地域で、とりわけ、海岸沿いのマジュンガなどは通年高温多湿の熱帯気候でマラリアの発生も高頻度です。海岸地域においては、隊員の住居には網戸設置を必要最低条件の一つとしていますが、就寝時の蚊帳の使用は必須です。マダガスカルでも蚊帳の購入は可能ですが、吊り下げ式が多く、すぐに設置しやすいテント型蚊帳は便利なので、日本で購入、持参されることを推奨します。

## 9 その他

・持参する衣類

中央高地（首都やアンチラベ市など）派遣の隊員の方は、乾季（特に 7、8 月）は 0 度近くまで冷え込むこともあるため、セーターやフリース、ダウンジャケットなどの冬物が必要です。どの地

域も日中は日差しが強いため、日焼け止めや帽子など紫外線対策用品の持参を推奨します。

その他、マラリア流行地域派遣の方は、ハマダラ蚊が活動する夕方以降は、長袖、長パンツ、靴下を着用し、防蚊対策に努めて下さい。

#### ・食料品・日用品

マダガスカル主食は米で、屋台や食堂でとる外食では、朝食にはお粥、昼食にはおかず（少量の肉や野菜）と大盛りのご飯のワンプレートを比較的リーズナブルな値段で食べることが可能です。肉類は牛、豚、鶏、カモ、アヒル肉などがあり、野菜類はトマト、青梗菜、キャベツ、ネギ、トマト、玉ねぎ、ピーマンなど比較的種類が豊富で市場やスーパーで購入が可能です。また年間を通して果物も豊富に出回っており、季節ごとにマンゴー、ライチ、パイナップル、りんご、桃、みかんなどが購入できます。調味料に関しては、日本製の醤油（キッコーマン）、中国製の醤油は首都や地方都市でも手に入ります。

日用品については、一般的にフランス製などの化粧品、シャンプーやリンス、衛生用品（生理用品、コットンなど）もスーパーや薬局で購入が可能です。防蚊スプレー、防虫スプレー、蚊取り線香、電気蚊取器についても、フランス製の物が現地で販売されています。またホテル等の宿泊時、ダニなどが気になる方は寝袋を持参するのも一案でしょう。

#### ・電化製品

テレビ、ラジオ、DVD プレーヤー、デジカメ、ビデオカメラ、扇風機、冷蔵庫、電子レンジ、炊飯器、洗濯機、電気蚊取器などは購入することができます。

電圧については、ほとんどの地域において 220V で、プラグは色々なタイプが流通していますが、多くはフランス式 C タイプです。変換プラグは、現地のスーパーや金物屋などでも購入が可能です。

以上